

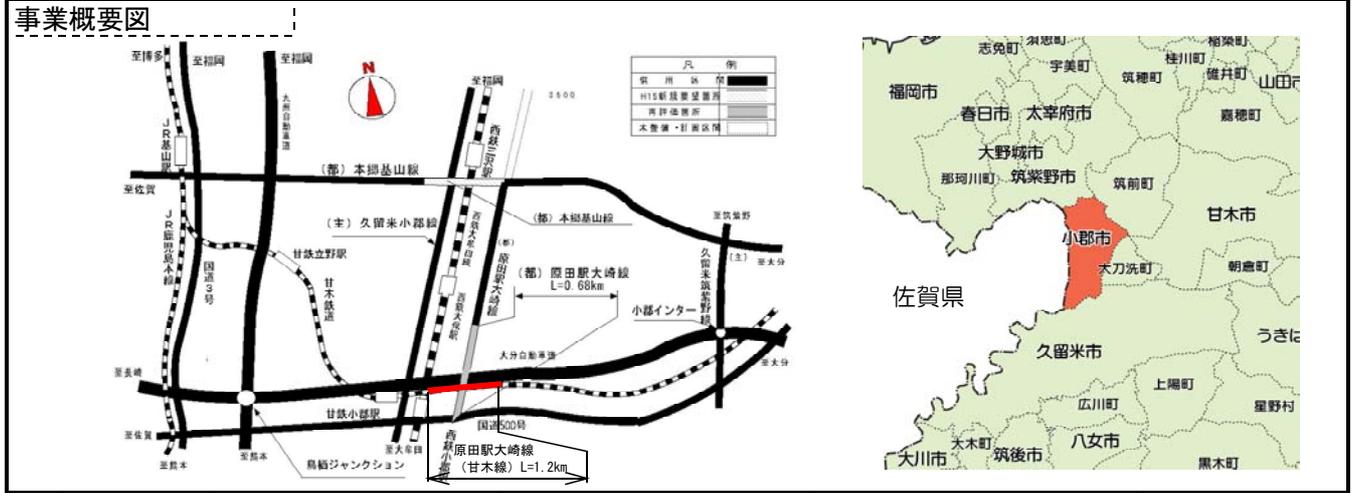
事後評価結果（平成17年度）

担当課：福岡県
担当課長名：公園街路課

事業名	都市計画道路 はるだえきおおさきせん あまぎせん 原田駅大崎線（甘木線）	事業	街路	事業	小都市
起終点	白：福岡県小郡市小郡字前伏 至：福岡県小郡市大板井字天神田	区分	限度額立体	主体	延長 1. 22 km

事業概要
都市計画道路原田駅大崎線（現 原田駅東福童線）は、小郡市を南北に縦断し福岡・久留米両都市圏を結ぶ幹線道路である。事業区間は、原田駅大崎線と大分自動車道及び甘木鉄道とを立体交差化するために、鉄道（甘木線）を約1. 2 km高架化するものである。

事業の目的・必要性
都市計画道路原田駅大崎線は、西鉄天神大牟田線に併走し踏切等の影響により各所で渋滞している（主）久留米小郡線の振替道路として、市街地における交通混雑を緩和し都市基盤整備と土地の高度利用に大きく寄与するものである。



事業の 効果 等	事業期間	事業化年度：H9年度 都市計画決定：H5年度	用地着手：H9年度 工事着手：H10年度	供用年：(当初) / H15 (暫定/完成) (実績) / H16	変動	1. 1倍
	事業費	計画時 (名目値) / 33.2億円 暫定/完成 (実質値) / 億円	実績 (名目値) / 29.4億円 暫定/完成 (実質値) / 億円		変動	1. 0倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	/ 10, 100台/日	実績 (暫定/完成)	/ 13, 447台/日	変動

旅行速度向上	33. 4 → 37. 5 km/h (供用前並行道路→後並行道路) (供用直前年次) H11年度 (供用後年次) H16年度	交通事故減少	→ 件/億台キロ (供用前現道→供用後現道) (供用直前年次) 年度 (供用後年次) 年度
--------	--	--------	--

費用対効果 分析結果 ()	B/C	総費用 億円 (事業費： 億円 維持管理費： 億円)	総便益 億円 (走行時間短縮便益： 億円 走行経費減少便益： 億円 交通事故減少便益： 億円)	基準年
費用対効果 分析結果 (事後)	2. 3	総費用 41億円 (事業費： 40.8億円 維持管理費： 0.0億円)	総便益 102億円 (走行時間短縮便益： 92.7億円 走行経費減少便益： 1.4億円 交通事故減少便益： 0.1億円)	基準年 H17年
事業遅延によるコスト増		費用増加額 億円	便益減少額 億円	

事業遅延の理由
平成9年度に事業に着手し計画通りに進捗していたが、仮線用地確保に伴う用地取得に時間を要したことにより、完了年度を1年延長した。

客観的評価指標に対応する事後評価項目

	<ul style="list-style-type: none"> ・ D I D 区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画密度が向上 ・ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成 ・ 対象区間が、緊急輸送路ネットワークの代替路線を形成する
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市中心部を縦断する幹線道路として、広域・市域内交通の円滑化に効果を上げている。 ・ 総合運動公園や総合福祉センターなどの公共施設へのアクセス道、またコミュニティーバスの運行ルートとなっており、施設利用を促進している。
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>商店等の土地利用が進んでおり、「地域の経済活動の活性化」や「まちの賑わい」をもたらしている。</p>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>事業の効果が十分に発現しており、再事後評価の必要はない。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>
	<p>特記事項</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。